

これから

明見中学校 羽田 希優

私にとって、この「姉妹都市派遣事業」に参加することは憧れであり、目標でした。兄からそういった事業があることを聞き、前から英語や海外に興味を持っていた私は、この事業に参加してもっと海外のことを学びたいと思っていました。参加できると決まった時喜びと同時に、推薦して下さった先生方の期待を裏切らないよう、精一杯頑張ろうとやる気がみなぎってきました。

出発前は、ホームステイを一人で体験するということもあり、楽しみな反面不安もありました。しかし、心強いユミさんや千葉先生、十八人の派遣団の仲間達、そして何より私のことを一番考えてくれていたホストファミリーの支えもあり、安心して楽しく過ごすことができました。

デンバーに到着した時、携帯の時間表示が日本時間からデンバーの時間に変わっていたり、道路標識など見るものすべてが英語だったり、一つひとつの小さなことにとても興奮してしまいました。

派遣団との観光で印象に残っているのは、色鮮やかな水族館、練習風景が浮かぶオリンピックセンターです。行く場所すべてが雄大で見る景色が写真のように美しかったです。

ホストファミリーと対面のとき、「まひろ」と平仮名で書かれた紙を持った女の子がいて、「これから始まるんだ」という緊張感をもちました。

ホストファミリーと過ごした五日間は、かけがえのない思い出となりました。教会や動物園、ダウンタウンなど、いろいろな所に連れていってくれましたが、やはり一番楽しく、心に残っているのは、夕飯を食べ終わった後のホストファミリーとの時間です。ゲームや映画を見たり、話をしたりしました。一番下の妹のエイダンが毎晩たいてくれたアロマオイルのおかげでよく眠ることができました。毎朝「よく眠れた？」と聞いてくれたり、「何をしたい？」と私に合わせたりしてくれたホストファミリーは、笑顔が絶えない本当に温かい家族でした。日本に帰るとき、ホストファミリーは、泣いて「寂しいです。」と言ってくれました。最初は一人でとまどい、うまくなじめず悩んでいたけど、この時には日本に帰りたくないと思うほど、ホストファミリーと楽しい時間を過ごしました。きちんと言葉で通じ合っていないくてもこんなにも相手を強く思えるということは、大事なのは言葉を使って話すだけでなく、心と心で通じ合うことなんだと痛感しました。

しかし、自分の英語力にはガッカリしました。ホストファミリー同士の会話は速くて、たまに聞き取れた単語を頭の中で並べて、こんなことを言っているのか程度にしかわからなかったし、英語で話しかけられても Yes か No で答えるのが精一杯でした。派遣団の中には英語が聞き取れている人がいたり、発音がとても上手な人がいたり、とても良い刺激になり、もっと英語の勉強が必要だと身にしみました。

ホストファミリーと別れた後、千葉先生が「こういう出会いが世界平和に繋がる。」というお話をしてくださいました。私たちは、他国の方と関わる機会が少ない。それなのにニュースでは悪いことばかりが目につく。だから、他国にあまり良いイメージを持っていない人もいます。しかし、実際に行ってみて、直接関わってみると、良いところがたくさんありました。そういうことを一人でも多くの人に伝えていきたい。それが私にできる世界平和への第一歩だと思いました。そんな大事なことを中学生である私に気づかせてくれる機会を作ってくれた学校の先生をはじめ、家族、姉妹都市派遣事業に関わってくださいました。本当にありがとうございました。今はまだ、「国際的な仕事に就きたい」という漠然とした将来像しか想像できませんが、将来私に何ができるのか見つめる良い機会となりました。この貴重な経験を糧にこれからも頑張っていきたいです。

そしていつか、ホストファミリーに会いに行き、成長した姿を見せ、一緒に過ごした五日間を語り合いたいです。